

・慶應義塾大学准教授)  
 ■ クルーグマンのような一九五〇年代生まれの才能が頑張ってくれていることは、「卓越性」が戦後啓蒙期の「健全な常識」とコラボレートしうることの証しである(雨宮昭彦・首都大学東京教授)



■ 政府税制調査会会長を務め、税の理論と現実に精通した著者の集大成。税という視点を通じた戦後

第8位

トとしての勘を培った歴史がわかる(平田英明・法政大学准教授)  
 ■ あの時とき彼はどうか考えたか われわれの経験した時代をたどる読み物(大坪宏至・東洋大学教授)



■ 約一〇〇年もの間、大きな変化のなかった経営管理にイノベーションが必要であるという考え方と読者への呼びかけが伝わってくる。イノベーションのヒントを解説

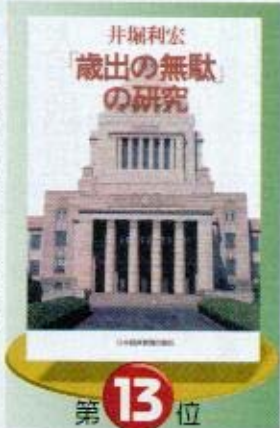
第13位

(畑農鏡矢・明治大学教授)



■ 経営理念以外はすべて変える努力の実際について多面的に考察(内野明・専修大学教授)  
 ■ 近年稀なほどの大改革とされる松下電器の改革を、広く、深く、対象企業に気兼ねせず分析した好著(平沢照雄・筑波大学教授)  
 ■ 伊丹教授が執念をもって作った本。そのプロセスそのものがモノ

第9位



■ 「増税の前にまず歳出のムダをなくせ」と言われるが、誰もが認めるムダはそれほど多くない。あたかもムダが多いがごとく喧伝することは必要な増税を先送りし、既得権に守られた歳出を温存させると痛烈に批判する(川崎一泰・東海大学准教授)  
 ■ 景気対策が叫ばれるなか、財政構造改革が忘れられてしまいう不安

第13位

い日本。著者は現状を批判するだけでなく、改善のために反貧困のネットワーク活動(NPO法人自立生活サポートセンター「もやい」)に取り組み。著者の提唱は重く受け止めなければならない(岩崎俊夫・立教大学教授)  
 ■ 本書は、貧困状態から脱出するためにどんな条件と制度が必要かを、ボランティアの実践から解き明かし、市場に参入しうる人間の生存条件を新たに提示した(柳沢遊・慶應義塾大学教授)  
 ■ 「貧困＝自己責任」論を現場から打破した好著。格差社会日本の現実を照らし出した(矢野修一・高崎経済大学教授)



■ 多くの重要問題について実名人で生々しい情報が明かされるが、本書の記述には個人的な感情は感じられず、理論的反論という立場が貫かれている(原田泰・大和総研チーフエコノミスト)  
 ■ 経済書における二〇〇八年の事件は、高橋洋一氏の登場である。この希代の政策プロモーターによる、日本の政策論争は一気に

第15位

夫・上武大学大学院教授)  
 ■ 本書は、今日の金融危機の原因を、われわれ人間が安定性を求めて市場を発展させてきた結果、皮肉にもその内部に生み出してしまった構造的なリスクに求めている。その逆説的な視点が高く評価できる(大西清彦・玉川大学准教授)



■ 長年FRBを率いた人間グリーンスパンの人格形成、エコノミ

第12位



■ 会社買収のメリット、デメリットを明快に解説する。会社の買収のルールについて具体的な提案を示している点で実践的であるが、資本市場の深い洞察も有益(井堀利宏・東洋大学教授)  
 ■ 「国富最大化」を基準に本書が提示する新しい会社買収ルールの考えは示唆に富んでいる(武田浩一・法政大学教授)

第16位